

留学生のためのチューター制度と活動報告

2001年度（初年度）

吉川裕子

I チューター制度誕生

外国語教育研究所では、久留米大学留学生を支援する組織として2001年度にチューター制度を導入した。下記の実施要項は学術国際課^(注1)によって作成されたものである。

1. 目的：外国人留学生に対し、日本人学生等による学習援助や生活上の指導を行うことによって、留学生の学習・研究効果の向上及び環境への適応を図ることを目的とする。
2. 対象留学生及び期間：本学に在学する外国人留学生で、渡日後最初の1年間を対象とし、個別及び集団指導を行う。ただし、必要と認められた者についてはさらに1年間を対象とすることができるものとする。
3. チューターの資格：本学に在学する大学院、学部4年生とし、留学生支援に強い関心と理解を持つ者とする。ただし、留学生をチューターとする場合は在日経験等に十分注意することとする。
4. 指導内容及び指導成果の報告：チューターの指導依頼は学術国際課を通じてチューターに伝える。チューターは、指導内容及び成果を別紙様式により報告するものとする。
5. 指導代：予算の範囲内
6. その他：チューターに関する事務は、学術国際課が処理する。

2001年5月、外国語教育研究所の関係者によるチューターの候補者の選考が始まり、5人のチューターが決定した。下記の5名である。

佐田亜紀・田 栄富・中村綾子・林 弘仁（以上比較文化研究科前期）

山本奈留美（比較文化研究科後期）

2001年4月に赴任した日本語教師吉川がコーディネーターとなり、久留米大学の留学生にとって必要なチューター活動とは何かを模索するチューター会議を重ねた。平行して留学生の状況とニーズを把握するためのアンケート調査（学部の1・2年の留学生対象）を行った。^(注2) その結果、学業上の支援を中心に生活上の支援も行うという方向が決まった。具体的な方法は下記の通りである。

1. 活動の方法

- ・水曜と金曜の5限に活動の時間を設ける。
- ・チューターは2～3人のグループで各曜日を受け持つ。
- ・利用者カードを作成し、記録を残す。
- ・活動の時間と場所は掲示板と学部の日本語クラスで知らせる。
- ・支援の活動を「留学生相談べや」と称する。
- ・留学生の持ってくる問題はどんな問題でも受け付ける窓口となり、どこへ行けば解決の相談ができるかを共に考える。
- ・留学生が日本の生活習慣や日本人の考え方を知るためのサポートをする。
- ・レポートの質問に関しては、論述の思考過程や資料の探し方など、方法を支援する。

2. 新入生への支援活動

- ・生活案内を作成し、新入生に配布する。^(注3)
- ・生活案内には既存の学生生活ガイドブックを基に、入国直後に特に必要な注意事項を記載する。（特に交通規則関係）
- ・生活案内は先ず中国語訳を作成する。
- ・大学を起点とした久留米市の生活情報地図を作成し、配布する。
- ・オリエンテーション期間にプログラムを支援する。（市役所に引率して外国人登録などの手続きを手伝う・別科オリエンテーションでの中国語による説明）

Ⅱ. 1年間の活動報告

次の表は初期の目標に沿って実施した2001年度の活動の報告一覧である。

活動の方法はチューター会議で検討することにより、少しずつ修正と改善を重ねてきた。6月には、「留学生相談べや」（以後「相談べや」）の時間帯以外の時間を希望する学生への対応を開始した。「相談べや」の時間に来られない学生には、吉川が窓口となって受け付け、チューターが時間外に個別に支援できるようにした。7月には、別科の学生にも「相談べや」の案内をして別科留学生の受け入れを開始した。更に7月には「相談べや」の活動を

5月	チューター依頼・決定 第一回会議（5月23日） 学部生へアンケート実施1 第二回会議（5月30日）
6月	第三回会議（6月6日） 「留学生相談べや」の案内（掲示版） 「留学生相談べや」開始（6月13日）、毎週水曜日・金曜日の5限 第四回会議（6月20日） 「留学生相談べや」の時間以外を希望する学生への対応開始
7月	第五回会議（7月11日） 学部1年留学生の指導の先生へ「留学生相談べや」の案内を発送（文書） 別科の学生に「留学生相談べや」の案内（別科生も受け入れる） 「留学生相談べや」7月末まで（8月は夏休み）
8月	第六回会議（8月8日） 新生に配布する生活案内と地図を作成（第七回会議は作業）
9月	第八回会議（9月11日） 別科のオリエンテーションプログラムを支援（生活案内や地図の配布と説明） 「留学生相談べや」の案内（掲示版） 「留学生相談べや」再開（9月26日） 全州大学からの語学研修生（30名、3か月の研修）に地図を配布 全州大学からの語学研修生も「留学生相談べや」に受け入れる
10月	相談べや活動の後でチューター小会議
11月	「留学生相談べや」の時間変更（水曜日4限に） 「外国語研究所ニュース」の紙面で「留学生相談べや」の案内
12月	第九回会議（12月5日） 「留学生相談べや」12月21日まで（冬休みに入る）
1月	「留学生相談べや」4回開く

宣伝し、学内で広く理解してもらうために、学部1年生の留学生担当の先生に案内の手紙を発送した。11月には、水曜日の「相談べや」を4限に変更した。5限はアルバイトに行く時間と重なるので4限の方が利用しやすいという声が利用者から出たためである。

Ⅲ 2001年度「相談べや」利用状況

2001年度の「相談べや」は6月13日に開設し42回開いて、1月25日に終了した。その利用状況をまとめたのが次の表である。

日本語関係

内 容	作 文	読 解	文 法	会 話	試験関係	その他	計
相談件数	19件	10件	19件	21件	5件	6件	80件
利用者数	7人	4人	9人	8人	4人	4人	36人

生活関係

内 容	図書館利用	情報教育関係	進学相談	その他	計
相談件数	4件	6件	4件	2件	16件
利用者数	4人	4人	2人	2人	12人

約6か月間（8月は休み）に96件の利用がみられ、述べ数で48人が利用している。（1人が複数回利用しているため、実際の利用者数は22人）。「相談べや」を一度は訪れた学生は、学部1・2年留学生と別科留学生の総数85人の26%に当たる。「相談べや」を開いた総回数が42回で、相談件数が計96であるから、1回平均2件の相談となる。

相談内容の詳細は、次の通りである。

1. 日本語に関して

- ・ レポート作成の方法（小レポートから指定図書を読んで書くレポートまで）
- ・ レポートの資料収集の方法
- ・ 日本語の添削（作文の課題／レポート／手紙文など）
- ・ 読解の課題の解答方法（難解な語彙／旧仮名遣い／漢字の読み方／大意の把握）
- ・ 個人的に興味ある分野の本や資料の読み方
- ・ 文法の質問（授受表現／条件表現／使役・受け身表現／敬語／その他類）

似表現)

- ・会話の日本語（縮約形／発音の問題／男女の言葉の違い／学生言葉／丁寧な会話／発表の仕方）
- ・日本語能力1級試験の勉強
- ・期末試験の課題への対策

2. 生活に関して

- ・図書館の利用（資料検索の方法／コンピュータでの資料検索／AV機器の利用法）
- ・単位登録の方法
- ・入学願書の書類の読み方と記入方法
- ・情報教育センターでのコンピュータの使用方法（基本操作からインターネットでの検索方法・ホームページの作成まで）
- ・アルバイト先に提出する書類の記入方法

以上のような多岐にわたる質問に対して、日本語の文法など日本語の専門に関わる内容については日本語教師が対応し、作文・読解などに関してはチューターが分担して対応してきた。「相談べや」の支援で目指していることは、留学生の個別の質問に対応しながら、勉強の方法を共に考え、自立を促すアドバイスをすることである。例えば、レポートの質問に対しても、先ず論述の思考過程や資料の探し方をアドバイスし、次の回に学生が書いてきた文章を見ながら、日本語の形式面や用法でのサポートをするようにしている。「相談べや」を継続して利用している学生の中には、大学の授業やレポートにおける日本語の困難に自ら上手に対処できるまでに、日本語の実力を伸ばしてきている学生もいる。

IV 今後へ向けて

2001年度のチューター活動は、初めの計画通り「学業上の支援を中心に、生活上の支援も行う」という方向で進められてきた。主な活動の場である「相談べや」では、日本語関係の相談が全相談の約80%を占めている。しかし、利用者の数が対象留学生の26%で、1回の平均利用件数が2件というのは非常に少ない。留学生が大学生活の中で日本語の問題を抱えていることは、

アンケートの結果からも明らかであり、多くの留学生に利用される方法を考えることが一番の課題である。留学生を学業・生活の両面から支援するチューター活動を更に充実させるよう、今後も検討を重ね、実施に移していきたいと考えている。

注

注1：学術国際課は2002年1月に国際交流センターの誕生と共に廃止となり、チューター活動に関する事務は、国際交流センターが引き継いでいる。

注2：アンケートの集計結果である。数字は人数（複数回答あり）

授業に関して	どんなことが難しいですか。	講義の聞き取り 12 専門語彙 7 授業内容 4 レポート書き 3 なし 2
	分からない時どうしていますか。	友人に聞く 7 先生に聞く 7 辞書を見る 6 日本人の友人に聞く 5 中国人の友人に聞く 4 本を見る 4 隣席の人に聞く・放置各 1
	何を手伝ってもらいたいですか。	専門語彙の漢字の読み 12 日常会話を学ぶ 5 レポート書き 4 授業理解支援 4 友人作り 2
生活支援に関して	どんな生活支援活動があったらいいと思いますか。	生活習慣を知る 3 交流活動・友人作り 3 アルバイトの日本語 2 何でも可 2 なし 5 無回答 13

注3：以下は2001年度にオリエンテーションで配布した案内である。両面コピーで片面は中国語版になっている。2002年度には、緊急時の連絡先に大学の電話番号が加えられ、英語版も整った。

